

平成 30 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語日本文化教育センター 准教授
氏名 Name	大和祐子
専門分野 Academic Field	日本語教育学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	非漢字圏学習者の漢字語彙学習の成功に影響する要因の解明
<p>今年度は、昨年度までに収集した実験データ（漢字正誤判断課題・語彙性判断課題）を用い、分析および成果発表を行った。第 1 に、非漢字圏学習者と漢字圏学習者の二字漢字語の書字認知実験の結果をまとめた。語彙知識が同等である両群の二字漢字語の正誤判断課題の正答率を比較したところ、漢字圏学習者は非漢字圏学習者より有意に正しく判断できていることが分かった。このことから、母語における書字形態の影響は日本語学習がある程度進んでいても、また日本語の語彙知識が同等であっても強く残っていることが明らかになった。この結果は、言語学会第 20 回国際年次大会(JSL2018)で報告したのち、再分析を加え、大和祐子(2019・印刷中)「日本語学習者の二字漢字語の書字認知の特徴-非漢字系学習者と漢字系学習者との比較から-」『日本語・日本文化』46.として論文にまとめた。</p> <p>第 2 に、非漢字圏学習者の漢字の書字認知に与える語彙知識の影響を検討した。非漢字圏学習者を語彙知識で上位群・下位群に分け、両群の漢字 1 文字の正誤判断課題の結果を処理の迅速さ・正確さの面から比較した。その結果、正しいと判断すべき漢字においても正しくないや判断すべき疑似漢字においても、語彙知識の豊富な学習者はそうではない学習者より迅速かつ正確に処理することができることが分かった。また、単純な漢字は複雑な漢字より効率的に処理できること、学習者になじみのある易しい漢字は難しい漢字より効率的に処理できることが分かった。さらに、これらの漢字の認知処理の刺激の面の特徴は非漢字圏学習者であれば、語彙知識の豊富さに関係なく共通していることも明らかになった。以上の結果は、タイ国日本研究国際シンポジウム 2018(JST2018)で報告し、大和祐子(2019・印刷中)「非漢字圏日本語学習者による漢字の書字的認知処理における語彙知識の影響」『タイ国日本研究国際シンポジウム 2018 論文集』として論文にまとめた。</p> <p>第 3 に、非漢字圏日本語学習者の漢字学習ストラテジーを、漢字 1 文字の書字認知能力との関係を中心に分析した。その結果、書字認知能力下位群の学習者は上位群の学習者より多彩な漢字学習ストラテジーを使用しており、それぞれのグループの学習者が好んで使用するストラテジーは異なっていることが分かった。この結果は、ハノイ大学国際シンポジウムで報告し、大和祐子(2018)「非漢字圏日本語学習者の漢字学習ストラテジー」『グローバル化時代における日本語教育と日本研究』318-329.として論文にまとめた。</p> <p>第 4 に、二字漢字語の正誤判断課題において、特に非単語の処理を中心に、漢字圏学習者と非漢字圏学習者で誤りであると認識しにくい二字漢字語の特徴を分析した。この結果は、第 12 回国際日本語教育・日本研究シンポジウムで報告した。</p>	